

1 研究主題

「児童生徒の障がいの状態や特性に応じた、自立活動の研修」

～本校・分校での実態の違う児童生徒の自立活動の授業に係る合同研修をとおして～

2 研究の概要について

自立活動は、特別支援学校の教育課程において、個々の児童生徒が自立を目指し、障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服するための必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を養うことを目的にしている重要な領域であり、学校の教育活動全体を通して、または自立活動の時間において指導するとされている。つまり、各教科、特別活動等の学びを困難にしている「指導すべき課題」を明確にし、学習の基盤を築くことで、社会とつながる力を育てるものである。そのためにも自立活動6区分27項目をしっかりと押さえ、一人一人の教育ニーズに視点をおき障がいの状態や特性に応じた指導する必要がある。

令和3年度学校経営方針により、本校としりべし学園分校は合同で研究を推進することになった。児童生徒の状況としては、本校は、知的障がいや重度重複障がいを持つ児童生徒が多い。また、訪問教育学級もあり、重度重複障がいを併せ持つことに加え、学齢超過者も在籍しており、非常に幅広い実態である。分校は本人の障がいのみならず家庭環境や生育歴など児童生徒をとりまく周囲の環境に課題が多く、それによる二次的な障がいを抱えていることも多い。このような本校分校の多種多様な児童生徒一人一人に応じた論拠を持った指導を行うには専門的な知識が不可欠である。そのために学校の重点教育目標「児童生徒一人一人の障がいの状態や特性に応じた教育活動を推進する」を受け、前述のように児童生徒の心身の調和的発達のための根幹をなす自立活動に焦点を当てた。そして取り組みとして自立活動の6つの区分とそれらを相互に関連づけて柔軟に指導できるための研修を行い、特別支援教育や障がい特性など総合的な知見を広め、教職員の専門性を向上させることを目的に研究を推進した。

3 研究の実際

(1) 研究の方法

教職員に自立活動についてのアンケートをとり、その結果を踏まえ講師やテーマを設定した。

本校と分校は約90km離れていることや、全道で新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況から遠隔テレビ会議システムやZOOMを使い、教室等に分散し視聴する形で、9つの研修を実施した。夏季休業中を除き、研修の時間は一回40分間とした。(夏季休業中は50分×3回を実施)

(2) 研究の内容

主な内容は以下のとおりである。

合同研修 ① (5/19)	『自立活動と教育課程について』 講師：本校教諭 齋藤 正夫 【研修の主な内容】 ○自立活動の概要と教育課程上のおさえについて基礎的な内容の説明 ・特別支援学校の専門性 ・社会参加（ICFの視点） ・時間に自立活動の役割について ・個別の指導目標での自立活動について ・教科と自立活動の違いについて ・学習指導要領の自立活動の内容 ・本校、分校の取り組み ・現在の課題
合同研修② (6/23)	『自分らしく生きる成人期を目ざして』 講師：学校長 辻山 しのぶ 【研修の主な内容】 ○自閉スペクトラム症の特性を理解し、将来を見据えた論拠のある指導 ・自閉症の教育的理解/施設設備／フォーマルまたはインフォーマルなアセスメント／行動上の観察の記録と課題分析・生活日課・生活地図 ・実践から（指導支援の展開／個別の支援計画の活用） ・教育は科学（主体的な活動と参加の実現／行動から指導支援を考える） ・将来を見通して（幼児期、学齢期、成年期）
合同研修③ (7/27) 夏季休業中	(1)『ことばの発達とその実態把握について』 講師：真駒内養護学校 自立活動教諭 皆川 悦子氏（ST） 【研修の主な内容】 ・「ことばの獲得」「ことばの発達」について ・発音について～「構音の発達と構音障害」 ・学校での「言語やコミュニケーション指導」のために「児童生徒の実態把握」～自立活動の観点での整理～ ・ケースの紹介 VTR 供覧～・ことばを伸ばす関わりについて (2)『食具と道具の使い方について』 講師：真駒内養護学校 自立活動教諭 田辺 絵理氏（OT） 【主な研修の内容】 ・食事場面の実態把握（食事メニュー、食形態・取り込み・嚥下、上肢動作、食具、周囲の環境） ・手の機能と発達について（手の操作、手の解剖・機能、手の発達（把握と操作）、発達の目安（粗大運動、手の運動、食事の様子、対人関係・言語等） ・食事場面の設定と工夫（椅子座位の姿勢、姿勢の工夫、スプーン、フォーク、箸、皿の工夫、周囲の環境設定）・事例の解説 (3)『姿勢、体の動きについて①』 講師：本校 自立活動教諭 田之上 昭（PT） 【主な研修の内容】 ・靴から知識を深める（マッスルインバランス） ・足関節の解説（オーバプロネーション過回内）・足底の解説（靴底の減り方から） ・靴の解説（靴の選び方）・インソールの解説・体重支持の観点、教員としての観点
合同研修④ (9/22)	『将来に向けて教えたこと』 講師：自閉症者地域生活支援センターなないろ 所長 加藤 潔 氏 【研修の内容】 ・教育とは・発達障害の教育の目的・教育の神髄・教育の工夫 ・すてきな発達障がいになるために（指導者側の発想転換）・配慮とは ・合理的配慮の根幹・乳幼児期や学齢期は成人期の幸せのためにある ・成人期のありよう・報酬の枠組みを明確に ・よかとは（考え方、重要性、整理、支援） ・よかをどう過ごすか（生活の基本）、成人期の生活 ・信頼される人、優秀な支援者・すてきな発達障がいについて ・国を支えるのは教育
合同研修⑤	『姿勢・体の動きについて②』

(10/6)	講師：本校 自立活動教諭 田之上 昭 (PT) 【研修の内容】 ・ICF の活用において必要なからだの基礎知識 ・姿勢について（姿勢体位・構え、重心と姿勢の関係、立位と座位での重心の位置、立位での理想的なアライメント、立位、椅子座位、理想的な姿勢、楽な姿勢） ・動きについて（指示・支持基底面、筋収縮、重心移動、立ち上がり、座り直し、ホディイメージ等） ・ストレートネック（首に掛かる負荷、持ち方、座り方、改善ケア）等
合同研修⑥ (11/17)	『アセスメントから視覚支援を考える』 講師：学校長 辻山しのぶ 様 【研修の内容】 ・適切な教育を展開するには ・アセスメント（目的、フォーマル・インフォーマルなアセスメント、ICF、視覚についてのアセスメント、専門機関との連携） ・視覚支援（自閉症への配慮点、重度重複障害児と自閉症児、資格対象を提示する祭の考慮点、自閉症の構造化の基本から、視覚的支持、視覚的明瞭化、視覚的組織化） ・肢体不自由児の実践から
合同研修⑦ (12/15)	『自立活動の再確認と 6 区分 27 項目について』 講師：本校教諭 小幡 史門 齊藤 慎二 【研修の内容】 ○自立活動の確認 ・総則における自立活動・自立活動の内容の取り扱い・個々の実態とは ・個人内差・教育課程上の位置づけ（学習指導要領／解説自立活動編） ・L 字型自立活動の構造・全教育活動を通じて行理由・学習上、生活上の困難 ・各教科と全教育活動を通じて行う自立活動の指導内容例 ・本校高等部の実践事例・時間における自立活動（実践事例） ・少し特別な考え方が必要な時間における自立活動・自立活動の課題 ・自立活動の指導について大切にしたいプロセス ○各項目の解釈やその具体を考える ・自立活動の内容 6 区分 ・心理的安定（具体的な指導内容を設定するまでの手順） ・健康の保持（例：自閉症の児童生徒） ・心理的な安定（例：重度障害のある児童生徒） ・人間関係の形成（例：ADHD のある児童生徒） ・環境の把握（例：知的障害のある児童生徒） ・身体の動き（例：自閉症のある児童生徒） ・コミュニケーション ・おさらい

4 研究の成果と課題

●成果

研修はそれぞれの講師の特色を生かした自立活動のまたは、自立活動の目的そのものに触れる内容を設定し、本校、分校、寄宿舎、事務局も参加し一丸となって同じテーマに迫った。

本校教諭齊藤からは、初回の合同研修①において自立活動は特別支援学校の教育課程において特別に設けられた指導領域であり、特に大切な教育課程の中心であること。内容の理解と教育課程の位置づけが不可欠であること。特別支援の専門性とは自立活動を理解し、指導できることが重要な要素であること、各教科や自立活動の内容を把握し、いつ・どこで・何を教えているのかをはっきりさせること、各教科等との密接な関係を保つこと、将来を見据えた具体的な目標など、基本的なことであり、最も大切なこ

とについて改めて学んだ。今回の全体研修の根拠となる内容であった。

学校長辻山からは、合同研修②では自閉スペクトラム症の基本的な理解や成人期を見据えた論拠のある指導について具体的な事例や動画を交えて学んだ。合同研修⑥では、論拠を持った指導にはアセスメントが必要であること、課題分析は必須であること、自閉症と重度重複障がい児はどちらも脳の障害であることから自閉症児の構造化の技法が肢体不自由教育のヒントになること、子どもの特性とそのニーズが論拠であることを学んだ。

夏季休業中に実施した合同研修③ではOT、PT、ST各セラピストの資格を持つ自立活動教諭から専門家の立場で研修を受けることができた。

真駒内養護学校の皆川氏からは、ことばとは音声言語のみならず、表情、身振り、視線等、書字言語、手話、指文字、点字等を含め、コミュニケーションや思考などの役割を持つこと、ことばの特徴や発達、自立活動の観点での実態把握について学んだ。

田辺氏からは食事に関する実態把握、手の機能、姿勢、具体的な食具の工夫、周囲の環境設定の大切さについて学んだ。

本校の田之上からは履いている靴から教職員の気付きの観点について、いずれもアセスメントの重要性について専門家の視点で講義を受け、知識を深めることができた。さらに合同研修⑤では基礎的な体の知識や立位や座位の姿勢等、指導者が発達の知識を持ち、児童生徒に経験させることで機能を向上させることが大切であると学んだ。

合同研修④で加藤潔氏より、発達障がいの児童生徒に焦点を当て、豊かな成人期を過ごすために教育でどんなことが必要か、よかの充実が生活を豊かにすること、将来を見据えた教育の重要性について学んだ。また、教育の真髄に触れ、改めて初心を見直すこと機会になった。

合同研修⑦では、本校教諭齊藤、小幡から改めて自立活動6区分27項目とその具体について学んだ。個々の児童生徒に必要とされている項目を選定し、それらを相互に関連づけて具体的な指導内容を設定することが大切だと再確認した。

研修終了後のアンケート【資料1】によると設問1『今年度の合同研修①～⑦はいかがでしたか』では、今回の合同研修は自立活動に焦点を当てて良かったという感想が多く寄せられた。外部の専門家をはじめ、本校教務担当教諭、自立活動教諭、学校長の講義が効果的だったという声が寄せられた。また、設問2『今年度の研修で自立活動の理解が深まりましたか。または、再確認するなどできましたか。』についても自立活動の理解が深まった、再認識できたとの声が多く寄せられた。設問4『今後、自立活動の指導を行うときにどんなことを大切に指導していきたいですか。またどんなことを大切だと考えますか』では「行っている指導が6区分27項目のどの部分なのかを意識することが大切」「見出し名だけではなくその中身もしっかり理解する必要がある」「教科と学習活動全般で行う自立活動について自分の中で明確にして授業や評価をしていきたい」「自立活動のそれぞれの項目に関連付けていくことを意識していきたい」「教科の学習項目なのか教科に内在する自立活動なのか自分の中で明確にして、授業づくりや評価をしていきたい」「各教科とのすみ分けや関係性は、やはり考えさせられる。」など、6区分27項目を意識して指導していくことや、いわゆる段階の評価である教科との違いを意識することが大切と考えられていることがわかった。また、アセスメントの重要性、将来を見据えた目標設定、職員同士や専門家との連携が必要であることが複数の職員から寄せられおり、今年度の研修を通して自立活動への理解が深まり、一定の専門性の向上が計られたと評価できる。

●課題

一方で、課題も浮き彫りになった。前述した通り、様々な障がいの状況であるため、学習指導要領に沿った研修を除けば「自閉症などの知的障がい」「発達障がい」「視覚支援」「肢体不自由」などある程度のカテゴリに分けて実施したため、指導している児童生徒にすぐ結びつく研修とすることは難しかった。

また、研修時間を、夏季を除き 40 分としていたため、もう少し時間をかけて欲しかったという声もあった。成果では自立活動について理解が深まったと評価されたが、具体的に相互に関連づけて柔軟に指導できるかは、今後の実践の中で検証されていくことになる。また、設問 3『自立活動の指導について、何か感じていることや困っていることはありますか』では、比較的規模の大きい本校では、具体的に職員同士の連携について課題とする声があった。このことについては、本校の教務や教育課程検討委員会と連携し学校全体で解決に向けて考えていく必要がある。

5 考察

本校・分校で実態の違う児童生徒の自立活動に係る合同研修は、職員も本校、分校、寄宿舎、中盤から事務部も参加し、様々な職種が参加する研修となった。自立活動にテーマを絞ることで、学校全体で意識を高めることができた。外部講師をはじめ、自立活動教諭、教務担当教諭、学校長がわかりやすい講義を展開してくれた成果である。一方で、個別の児童生徒に対する内容にはなりにくかったため、目の前の児童生徒の指導計画を立てたり、実際に指導を行ったりすることに直結せず悩むこともあるだろう。課題でも触れた通り、児童生徒に向けた課題ではなく職員同士の連携も少なくない課題としてあがっており児童生徒一人一人の課題解決に向けて論拠を持った指導に取り組んでいくことが大切になると考える。

6 今後に向けて

今年度は、研修をとおした自立活動の研究であり単年度計画である。自立活動について一定度の成果が見られたことから、今後は自立活動についての実践研究を推進していきたいと考える。

また、自立活動の研修を継続してほしいとの声があることから、次年度は比較的時間の取れる長期休業中に研修を計画していきたい。具体については、今年度中に分掌内で検討し次年度に提案する。

文献

文部科学省(2018)特別支援学校教育要綱・学習指導要領解説総則編

文部科学省(2018)特別支援学校教育要綱・学習指導要領自立活動編

加藤潔(2017)発達が気になる子のステキを伸ばす「ことばがけ」

渡邊賢治／岩井雄一他(2021)知的障害教育を拓く自立活動の指導

下山直人(2021)自立活動実践セミナー2021 まとめ